

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	第3回音更町総合計画推進委員会
開催日時	平成30年10月17日（水） 午後3時00分から午後4時35分
開催場所	音更町役場庁舎2階 第3委員会室
委員出席者	林委員長職務代理、荒川委員、岡庭委員、梶谷委員、河田委員、小林委員、杉原委員、畠委員、宮崎委員
オブザーバ出席者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課主査（地域創生） 若槻氏
町側出席者	渡辺企画財政部長、重堂企画課長、堀田高齢者福祉課長、佐藤生涯学習課長、三橋生涯学習係長、西岡企画調整係長、田中企画調整係主任、松島企画調整係主事、津久井まちづくり政策推進員
傍聴者	なし
議題・諮問内容	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議件</p> <p>（1）重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書の検証について</p> <p>4 その他</p> <p>（1）次回のスケジュールについて</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・音更町総合計画推進委員会議案 ・会議次第 ・重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書 ・平成29年度社会教育事業実績報告書 ・音更町高齢者福祉施策について
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>【生涯学習（郷土資料室）】</p> <p>委員： ① 帯広大谷短期大学の教育研究担当教授の立場から、学生たちの博物館実習の授業において郷土資料室の資料整理のお手伝いをしているが、確認作業も完了しつつある。 今後は分室にある資料についても正課の実習として学生たちが整理作業を行うことができれば、短大としては学生たちの学習効果を得ることができ、町としても資料の増加分の台帳整備ができるのではないかと考えているため、仕組みづくりについて知恵を貸していただきたい。</p> <p>② 郷土資料室において、高齢者大学の郷土研究部で学ばれたOB・OGの方たちがボランティアの解説員として常駐していただけるスペースとして机・椅子などを設置すれば、いつでも解説を受けることができるようになるため、来館者増への呼び水となるのでは。 来館者対応がない時間帯についても、チラシやポスター作りなど様々なアイデアを出してもらおうようにしてはどうか。</p> <p>③ 資料の寄付については、開館当初はある程度の数があったものの、最近ではなくなって</p>

きているということだが、町民の方が所有している昔の町にまつわる写真を提供いただければ、資料の蓄積につながるのでは。また、図書館においても同様のことが言えると思う。デジタル化してパソコンに取り込めば劣化しないように保存できるし、ボランティアの方たちの力を借りることもできると思われるため、検討いただきたい。

事務局： 後日詳細についてご相談の上、検討させていただきたい。

【生涯学習（放課後子ども教室）】

委員： 帯広大谷短期大学では、社会教育主事過程の社会教育実習において帯広市と放課後子ども教室の提携を結び、今では10年以上にわたる関わりができています。

15年ほど前になると思うが、短大に社会教育主事課程を設置するにあたり、音更町においても子どもの居場所作りや学童保育に実習として関わっていくことができるよう、教育委員会にご相談した経緯があるが、当時は仕組みづくりができなかった。

音更町に所在する短大なので、町内の子どもたちと関わっていきたいという本意があることに加え、現時的な問題として、学生たちの交通費の負担がかなり大きくなっているという実態がある。

可能であれば、徐々に検討を進めていく形で構わないので、音更町内の小学校において学生たちが子どもの居場所作りに関われるような仕組みを考えていただきたい。

事務局： 町としてありがたいお話であるため、教育長にも報告させていただきたい。

【高齢者福祉（北海道胆振東部地震に伴う停電における高齢者等への対応）】

委員： 北海道胆振東部地震とそれに伴う停電の際、高齢者世帯等に対して町がとった対応について伺いたい。

事務局： 要介護認定を受けている在宅の方については、担当のケアマネージャーに対し、朝早急に連絡して安否確認を行った。施設入居者の方については、各施設の職員を通じて確認。

一方、在宅で酸素吸引を必要とする方が停電の影響で機器を用いることができない状況にあったことから、個別訪問し、医療機関や施設で対応していただくよう調整を行った。

また、今年から町で実施している配食サービスの従事者に対し、利用者宅へ食事をお届けする際、安否確認についても行うよう指示して対応にあたるなどした。

【高齢者福祉（地域包括ケアシステム）】

委員： 他の町村と比較して医療・介護の連携推進協議会の発足が遅く感じているが、その理由は。

事務局： 様々な要因があるが、主たるものとして、生活圏域が音更町と帯広市にまたがることから医療機関との連携の調整に時間を要したこと、また、町内に存在する100を数える事業所それぞれとの協議についても時間を要したことが挙げられる。

委員： 今後は、会長である帯広徳州会病院の棟方院長を中心として、スピード感をもって連携の推進を図っていくという理解でよろしいか。

事務局： ご発言のとおり棟方会長を中心として推進を図ろうというところ。

棟方会長が十勝医師会の地域包括ケアシステムの担当理事ということもあり、早急に進めるようにとの意向が示されていることから、11月1日に関係者の担当部会を開き、具体的な検討に入る段階となっている。